

コロナ禍での「りっかりっかとしょかん」の取り組み —2020年度の活動報告と今後のこと

沖縄県図書館協会調査研究部会

1. これまでの活動を振り返って

沖縄県図書館協会では、協会事業の1つとして、「りっかりっかとしょかん」と名付けた活動を2017年度からスタートしている¹。

この活動は、2017年8月に開催された機関誌部会会議をきっかけに企画立案が始まり、2018年度には浦添市立図書館の協力を得て第1回オープニングイベントを²、2019年度にもうるま市立中央図書館の協力の下で第2回オープニングイベントを³、それぞれ盛大に開催することができた⁴。

まずは当時のオープニングイベントの様子を写真を通して振り返ってみよう。



【利用者代表のご家族へ、機関誌部会長(当時)よりオリジナルしおりの贈呈】

●浦添市立図書館でのオープニングイベント



【協会長から浦添市立図書館長へポスター授与】



【沖縄県図書館協会のあゆみを紹介した展示・沖縄国際大学司書課程受講生が作成】

¹ 本事業の企画立案から2018年度・第1回オープニングイベントまでの活動の様子は、手登根千津子「4月30日図書館記念日 りっかりっかとしょかん はじまりのはなし 真理が我らを自由にする」(『沖縄県図書館協会誌』22, 2019.3, pp.80-84)に詳しくまとめられている。

² 2018年4月21日(土)に実施

³ 2019年4月20日(土)に実施

⁴ 両オープニングイベントの様子は沖縄県内のニュース番組や新聞記事にも大きく取り上げられた。

●うるま市立中央図書館でのオープニングイベント



【利用者代表のご家族とともにテープカット】



【「図書館記念日企画展 ももココロ氏原画展 & 講演会」講師のご挨拶】



【朗読ボランティアすだちの皆さんによる
ウチナーグチ紙芝居】

「りっかりっか」とは、沖縄の言葉で「さあさあ、一緒に行こう」という意味をもつ。つまり、「りっかりっかとしょかん」とは、「図書館へみんなで行こう!」という合言葉をもとにした図書館普及運動

であり、2017年度の開催準備期間に作成した開催趣意書によると、日本図書館協会が制定した「図書館記念日」(図書館法が公布された4月30日)の趣旨に賛同し、沖縄県図書館協会会則第2条「本会は、沖縄県内及び奄美地方で図書館活動を行うすべての団体及び関係者の連携を図り、図書館事業の振興を推進し、地域社会の発展及び文化の向上に寄与すること」という目的を実現するための事業として、沖縄県内の公共図書館はもちろん、奄美地方の図書館や、学校図書館や大学図書館、専門図書館、書店、ブックカフェなど本や読書にかかわる機関や場とも連携しながらその事業を実施することを目指している。事業の期間は、図書館記念日・4月30日前後の1か月程度となっている。

本事業は、2017年度から2018年度までは沖縄県図書館協会の中の機関誌部会が主に企画・準備を担当していたが、2019年度から2020年度にかけての取り組みは、機関誌(本誌)の発行作業と事業の企画立案・準備・調整といった業務が同時期に重なることの負担を考慮するとともに、沖縄県民への図書館普及運動とその効果検証という活動内容との親和性をふまえて、同協会内の調査研究部会が引き継ぐことになった。

2019年度から2020年度にかけての「りっかりっかとしょかん」の準備チームのメンバーは、調査研究部会から望月道浩部会長と副部会長の山口の他、構想段階から本事業をリードしてきた手登根千津子前機関誌部会長(2017年度まで)、大谷周平部会長(2018~2019年度)、さらに、共催団体であるJICA 沖縄の図書資料室のスタッフ(当時)である福原優子氏、沖縄県立図書館内の協会事務局スタッフ(玉木園子氏・薄井美香子氏)の7名である。

本稿では、2019年度~2020年度初頭にかけての「りっかりっかとしょかん」の活動報告とともに、期せずして「コロナ禍」に見舞われたことによるいくつかの問題と今後の課題を記録としてまとめておきたい。

2. 2019年度～2020年度の取り組み

2.1 オリジナルポスター・しおりの制作

「りっかりかとしょかん」では、2018年度・2019年度、『琉球新報』掲載4コマ漫画『がじゅまるファミリー』や“うちなー漫画家”として知られる、ももココロ氏の作画によるオリジナルポスターと、そのイラストを用いたオリジナルしおりを作成し、沖縄県内の公共図書館(公民館図書室を含む)、学校図書館、大学図書館、病院図書館などの専門図書館へ広く配布してきた。2020年度はこれまでのデザインを一新することとし、準備チームによる対面会議(2019年9月3日(火)、沖縄県立図書館内会議室)のあと、メール会議を重ねた結果、

- ① 県内図書館のオリジナルキャラクターを一同に集めたデザインする
- ② 沖縄県読書推進運動協議会が主催する第1回「本のある風景」写真コンクール入賞作品をもとにデザインする

という2つの案が出された。

このうち②の案については、沖縄県読書推進運動協議会の事務局が同じ沖縄県立図書館内にあり、スタッフが沖縄県図書館協会事務局を兼任していたことから、連絡調整がスムーズであることからの提案であったが、2019年9月に発表された第1回の最優秀作品(沖縄県立西原高等学校・2年生(当時)比嘉萌鈴氏の作品)が図書館をイメージできるたいへん優れた作品であったため、②の案を採用することとして、ポスターデザインの話し合いに移ることになった。



【沖縄県読書推進運動協議会主催・第1回「本のある風景」写真コンクール最優秀賞・「ひととき」】

「りっかりかとしょかん」の活動に対して、快く写真を提供してくださった比嘉氏にはこの場を借りて改めてお礼申し上げたい。

ポスターデザインの検討のための話し合いは、2019年12月25日(水)、沖縄県立図書館内会議室にて行うこととなった。会議には、準備チームの他、2018年度・2019年度のオリジナルポスターのデザインを手掛けてくださった、南原明美氏にもご出席いただき、上記の写真を用いたポスターデザインについての具体的な話し合いを行った。

その結果、

- ポスターのサイズはA2とする、
- ポスターの向きは縦長とし、写真の両端部分をイメージが崩れない程度にトリミングする(著作者の了承済み)、
- 写真を上に配置し、下にはキャプション等を入れる構図にする、
- 写真のイメージは、「静かに落ち着いてゆっくり読書をしよう」というイメージ。「りっかりかとしょかん」というロゴと写真をつなぐキャッチコピーを入れる必要がある、

といったことを確認した。

また、ポスターと同時に各図書館へ配布するしおりについては、2019年度まではポスターデザインを利用して作成していたが、写真をそのまましおりにするのはデザイン上、難しいため、ポスターとは別のデザインでしおりを作成することとし、沖縄県立図書館の配布物にイラストを寄せている奉仕班のスタッフ(仲尾涼子氏)に協力してもらい、図書館の活用法をイメージできる内容でのイラストの作成を依頼することとした。また、最近の印刷費の高騰の影響もふまえて、しおりの印刷は業者発注はせず、ダウンロードして各図書館で使ってもらう形式とすることも確認した。

しおりでは、レファレンスサービスや相互貸借、図書館イベント(お話し会など)、障害者サービス、リクエスト・予約サービスなど、館種を問わず、どの図書館でも共通して取り組まれているサービスを紹介するイラストとコメントの他、学校図書館

や病院図書館(患者図書館)での活動を紹介する内容のしおりも作成していただいた。完成したしおりのデザイン(一部)は次の図の通りである。



【2020年度りっかりかとしょかん・オリジナルしおり(仲尾涼子氏作)】

しおりに使われたイラストには「琉球犬」や「ライブラチャー」「グルクン」などの、沖縄らしい動物が配されており、沖縄の自然風土を広く伝える機能を持つ図書館らしい工夫が施されている点にも今年度の取り組みの特徴があるだろう⁵。

ポスターに掲載するキャッチコピーについては、準備チーム内でメールで案を出し合った結果、「のぞいてごらん、あなたの図書館」を採用することとなった。これは、写真のイメージが図書館内で静かに読書をする風景を遠くから(入口あたりから?)見ているような構図であること、ポスターを見た市民が身近な図書館をのぞきに行ってみるとこうした素敵な風景が待っている、ということイメージでき、メインの写真と「りっかりかとしょかん」という事業名をつなぐことができると考えたからである。

デザイナーの南原氏にはこのキャッチコピーと

写真をもとに、必要な情報として、①4月30日が図書館記念日であること、②身近なところにたくさんの図書館があること(公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館など、ライフステージに応じて様々な館種の図書館があること)、③その数をイメージしやすいように館種ごとの設置数、④「りっかりかとしょかん」事業の趣旨(開催趣意書から抜粋したもの)、⑤沖縄県図書館協会の SNS・ブログへのアクセス情報などを含めたポスター案を4案作成してもらった。

⑤については、図書館館内にポスターを掲示した場合、スマートフォンを持ち出す必要があり、図書館によっては館内でのスマホ・携帯電話のカメラ機能の使用を禁止しているところもある、と懸念する意見もあり、2018年度・2019年度のポスターには採用しなかった経緯もあったが、市民の生活の中にQRコードの使用がかなり定着してきており、協会の活動を知ってもらう上で有効な手段となりうるメリットがあることから、2020年度のポスターから試験的に掲載してみることとした。

このほか、ポスターにメインで使用する写真の中の風景が、若い世代の女性、制服姿、静かな読書の様子であるため、図書館の多様な利用者層や、多様な機能を補足する必要性も考慮し、南原氏には、①仕事をしている男女(スーツ姿以外の職業人も)、②高齢者、③幼い子供とその保護者などが、④読書や ⑤調べ物をしている様子を描いたイラストを配置してほしい、という要望も出すこととした。メールでの数回の打ち合わせを経て、完成したポスターデザインとイラストは次のようなものである。

なお、「りっかりかとしょかん」の取り組みは、開催趣意書にもある通り、図書館だけでなく、本にかかわるすべての機関や場を巻き込むことを前提としている。今年度は初の取り組みとして、完成したポスターを沖縄県書店組合と(株)沖縄教販の協力を得て、県内書店約50店舗へ配布・掲示していただくよう依頼することとした。配

⁵ しおりとポスターは「沖縄県図書館協会ブログ」にてダウンロードできる。<https://okitokyo.ti-da.net/e/114>

87812.html, 2021.1.15 アクセス

布にご協力いただいた皆様にはこの場を借りて改めてお礼申し上げます。



【2020年度 りっかりっかとしょかんオリジナルポスター】



【ポスターに掲載した利用者のイメージを広げるためのイラスト】

2.2 オープニングイベントの検討

「りっかりっかとしょかん」事業では、ポスターとしおりが完成した後、4月30日の1週間ほど前の時期に、沖縄県内の公共図書館の協力を得て、図書館記念日を広く知ってもらうためのオープニングイベントを過去2年間開催してきた。ちょうどこの時期は、図書館記念日と連動して、県内の各図書館で図書館PRのためのイベントが開催されることが多く、そのキックオフイベントも兼ねることも企図している。

1.で紹介したように、2018年度は浦添市立図書館、2019年度はうるま市立図書館にご協力いただき、100名以上の来客のもと、盛大なイベントを開催することができた。こうした取り組みが県内図書館でも広く周知されるようになり、2020年度は、沖縄市立図書館からの申し出があり、2020年4月25日(土)14時から、オープニングイベントを開催する方向での調整を進めることとなった。

メールでの事前調整を経て、対面での話し合いは、2020年2月21日(金)、沖縄市立図書館の会議室にて、準備チームのメンバーと市立図書館のスタッフの皆様とともにいった。新型コロナウイルス(COVID-19)の影響が少しずつ出始めている頃であったが、この時期はまだ全国一斉休校の要請前であり、利用者が密集しないように気を付けながら開催することを確認したうえで、オープニングセレモニーの式次第やクイズ大会、沖縄市立図書館ボランティアの協力によるお話し会の開催などのプログラムの概要を決定した。

また、会議終了後には、市立図書館スタッフのご厚意で、会場となる図書館エントランスや、館内の展示スペース、お話し会の会場などをご案内いただいた。沖縄市立図書館は2017年5月にいまの施設にリニューアル移転しており、新しい図書館の魅力的な施設をフル活用したイベント開催に向けて、楽しみが広がるとともに、具体的なイメージをつかむことができた。



【オープニングイベント開催予定地・
沖縄市立図書館の見学】

沖縄市立図書館での話し合いを終えた後、準備チームでは展示パネルやオープニングイベントの式次第の作成などを進めることとなった。しかし、2月末からの安倍晋三元首相による全国一斉の休校要請を受けて、沖縄県内各地の公共図書館も閉館、または貸出のみのサービス提供(読み聞かせ等のイベント等は当面中止)が増えることとなった⁶。その後、感染がいったん落ち着いた3月中旬以降には、沖縄県内でも開館を再開する公共図書館も増えてきたため⁷、開催予定地の沖縄市立図書館とも連絡を取りながら、オープニングイベントを縮小する方向で練り直し、協会長のあいさつ、テープカット、ポスター・しおりの関係者への贈呈、沖縄県図書館協会の紹

介ポスターの展示のみの簡素な内容とすることを確認した。しかしながら、4月に入ると再び首都圏で感染者が爆発的に増加、4月7日に大都市を中心とした7都道府県に政府による緊急事態宣言が発出、同じ日には沖縄県でも1日に12人が感染する深刻な事態となった。その後、4月中旬には、全国一斉の緊急事態宣言が発出される運びとなったことから、県内の公共図書館も続々と閉館することとなり⁸、沖縄市立図書館との話し合いの結果、オープニングイベントも中止せざるを得なくなった。オープニングイベントの開催は叶わなかったが、イベントの開催に向けてぎりぎりまで調整いただいた沖縄市立図書館の皆様には改めてお礼申し上げたい。

3. 今後の取り組みと課題

2020年度の「りっかりっかとしょかん」の取り組みは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、残念ながら、各図書館へのオリジナルポスターとしおりの配布のみとなった。当初は、オープニングイベントの他にも、各図書館での図書館PR関連のイベント情報を集約して、沖縄県図書館協会のSNSやブログでの紹介も検討していたが、緊急事態宣言が5月中旬まで続き、解除後も入館者数の制限、座席使用禁止などの措置が続いて館内イベントは中止を余儀なくされたことから、この取り組みも実現できなかった。

全国一斉緊急事態宣言の解除後、沖縄県の感染状況はいったんは落ち着いたものの、7月に入り再び感染者が増加傾向に転じ、7月31日には71人の過去最高の感染者数を記録、8月1日には沖縄県独自の緊急事態宣言が玉城知事により発出されることになった。こうした、いわゆる沖縄県での「第二波」は8月9日の156人をピークに徐々に減少傾向に転じたことから、9月5日をもって終了することとなった。しかしながら、2020年11月ごろから首都圏での感染

⁶ 「県立図書館が臨時休業発表/名護中央公民館も休館」『沖縄タイムス』2020.2.29, 朝刊25面、「沖縄市立図書館 博物館など休館 ウイルス感染防止で」『沖縄タイムス』2020.3.2, 朝刊23面ほか

⁷ 「浦添市施設の利用制限解除/中央公民館などきょうから」『沖縄タイムス』2020.3.23, 朝刊18面ほか

⁸ 「県立図書館休館/来月12日まで」『沖縄タイムス』2020.4.11, 朝刊26面ほか

が再び増加傾向に転じ、2021年1月8日からは首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)に政府による緊急事態宣言が再び発出され、1月14日からは、大阪府、兵庫県、京都府、愛知県、岐阜県、福岡県、栃木県も追加されることになった。沖縄県については現在のところ(2021年1月15日現在)この宣言下にはないものの、県内の医療資源のひっ迫は続いており、今後の状況はなかなか見通せない状況にある。こうしたことを受けて、2021年度の「りっかりかとしょかん」も、オープニングイベントは自粛し、2020年度と同様、ポスター・しおり配布を中心として事業を継続することを決定した。

新型コロナウイルス感染症は「未知の病」であり、まだまだ解明されていない点が多いと言われている。「完全な収束には、3年から5年ほど必要になる」という流行当初の予測⁹も現実味を帯びてきたようにも感じられる。交通網の発達により、人の移動が国境を越えて可能になった今日では、また別の新しいウイルスが私たちの生活を脅かす可能性もある。こうした状況下で「新しい日常」への対応が求められる中、公共物と公共空間を分け合うという、従来の図書館の活動の在り方そのもの見直し

が求められているようにも思われる。

「りっかりかとしょかん」＝「図書館へみんなで行こう!」という合言葉を当たり前のように口にできる状況ではなくなってしまったが、開催趣意書にも記しているように、「図書館は、日本国憲法に定められた、知る権利(知る自由)、学ぶ権利を保障する役割を担っている」。そして、「一人ひとりの情報ニーズに応じた様々なサービスを提供することで、いつでも・どこでも・だれでも真理を追究できる場所となる」ことを目指している。どのような困難な状況下であっても、自宅にいながらにしても、図書館の本質的な機能を楽しむことができることが「りっかりかとしょかん」の趣旨とも言えるだろう。

沖縄県図書館協会調査研究部会では、今後も「りっかりかとしょかん」事業の再検討を通して、「図書館へみんなで行こう!」と気軽に言い合える日を夢見つつ、県内図書館関係者とともに、新しい日常の中での図書館記念日の在り方を今後も引き続き検討していきたいと考えている。(2021年1月20日)

構成・やまぐち しんや:沖縄国際大学

⁹ 「新型コロナの収束シナリオとその後の世界(3)収束まで「3年から5年」が現実か——日経バイオテク」[htt](https://www.nikkei.com)

[ps://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/news/pl/20/04/24/06847/](https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/news/pl/20/04/24/06847/), 2020.4.20 公開